

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	生物形態形成の多様性と普遍性	研究代表者名	小椋 利彦
-------	----------------	--------	-------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：
本来の目標であった Tbx/Irx 遺伝子群の形態形成における役割解明についての研究の達成度は、ほぼ期待通りであった。また、機械刺激による転写制御という新たな課題に移行することにより、研究の将来性を高めることに成功した。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（○） 十分に貢献できた
- イ（ ） 概ね貢献できた
- ウ（ ） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：
機械刺激依存転写制御の研究は、未完成であるが、形態形成分野に新しい方向性を与える可能性があり、その意味での貢献は大きい。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（ ） 非常に高く評価できる
- イ（○） 概ね高く評価できる
- ウ（ ） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：
Tbx/Irx 遺伝子群について、研究期間の前半で、目標に添った成果を上げた。後半では、その研究から派生した機械的刺激による転写刺激に関する研究に焦点を移したが、その成果は独創的研究に発展する可能性が高く意義深い。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
前半の成果は、著名な学術雑誌に公表されている。後半の成果は完成すれば大きな波及効果が期待される。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
○	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

形態形成の多様性と普遍性について、2群のホメオボックス型転写因子に注目し成果を上げたが、中間評価後は、この課題に関する研究にはそれほどの進展がみられなかった。しかし、前半の研究の発展として、「機械的な刺激によって制御される遺伝子転写」という研究にシフトできており、形態形成という問題に新しいアプローチを見いだすことに成功している。この展開は予想外であったが、学術創成研究に相応しく、今後の発展が大いに期待される。